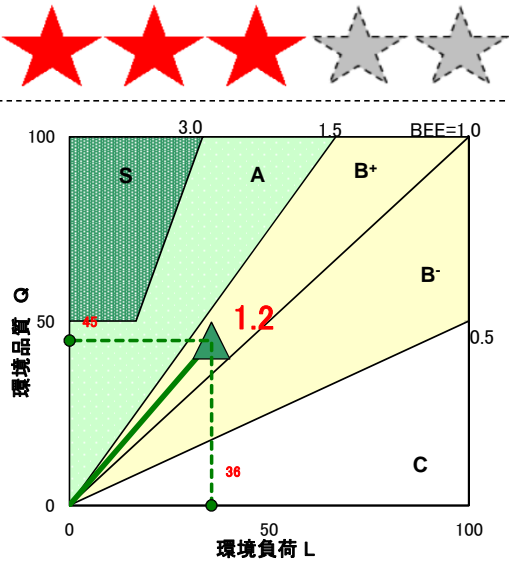


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	富士フィルム九州第4-2期建設工事	階数	地上5F		
建設地	熊本県菊池郡菊陽町津久礼2900番	構造	S造		
用途地域	市街化調整区域(指定無し)	平均居住人員	25人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2012年6月 予定	評価の実施日	2012年5月1日		
敷地面積	256,465 m ²	作成者			
建築面積	3,358 m ²	確認日	2012年6月1日		
延床面積	12,335 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.2

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

85%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

86

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士フィルム九州第4-2期建設工事	階数	地上5F
建設地	熊本県菊池郡菊陽町津久礼2900番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域(指定無し)	平均居住人員	25 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年6月 予定	評価の実施日	2012年5月1日
敷地面積	256,465 m ²	作成者	
建築面積	3,358 m ²	確認日	2012年6月1日
延床面積	12,335 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★☆☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 86

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 94

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 52

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 93

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 95

重点事項の評価(レーダーチャート)

排出量削減の推進
安全安心で暮らしやすい社会の実現
循環型社会の実現
県の地域資源の有効活用と保全

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

冷暖房は居住域空調（作業域空調）を生産系とは別にその負荷に応じ個別空調出来るように省エネルギー化を図る計画とした。

照明は作業エリアの点滅を細分化することで無駄な点灯を抑えるよう配慮した。（リモコンスイッチにより管理室での点滅操作を可能とした。）

Q1 室内環境

高い断熱性能の確保や日射に対する配慮等により、快適な居住空間を実現。

又、喫煙室を設置して完全な分煙対応をおこなっている。

Q2 サービス性能

十分な階高と天井高を確保。また、将来の増築や電源計画の変更を考慮しケーブルラックを露出対応とし維持管理機能、設備更新性に配慮する計画とした。

飲料用以外の雑用水と屋外散水には敷地内一次処理井水を利用し、建物の信頼性の向上を図る計画としている。

Q3 室外環境（敷地内）

十分な緑地を確保し、動植物、樹木等の生物資源を保存し、敷地内温熱環境の向上に努めている。

既存樹木の保存（移植）、再生を積極的に行っている。

- ・自然植生に配慮した植栽。

LR1 エネルギー

屋根はダブル折板断熱材入り、壁はALC（125 t）を採用し建物の熱負荷を低減する計画とした。

照明点灯はリモコンスイッチによるゾーニング制御や、人感センサーによる自動点滅制御を行う計画とした。

LR2 資源・マテリアル

節水を図り、雨水を再利用することで水資源を保護する。

- ・節水器具の採用。
- ・敷地内雨水再利用システムによる冷却塔補給水利用。
- ・居住エリアの仕上げ材は接着材や塗料に化学物質を含まない材料を利用した。
- ・エコマテリアルの採用。

LR3 敷地外環境

大気汚染防止、振動、風害、光害などへ配慮する。

- ・雨水再利用システム（冷却塔補給水に再利用。）
- ・周辺環境を配慮した緑地計画、建物配置計画を行っている。
- ・夜間照明は周辺地域に配慮。

その他

敷地内の雨水については、土壌汚染対策として雨水貯留槽に一次貯留し水質検査をした後、敷地内に設けた浸透池に浸透させている。また建物周辺及び配管ラック下部は化学物質が土壌に浸透しないよう否浸透性の仕上げ材で防護している。

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
富士フィルム九州第4-2期建設工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境			0.30					3.0
1 音環境		1.8	0.15	-	-			1.8
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-			
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-			
2 温熱環境		2.8	0.35	-	-			2.8
2.1 室温制御		2.7	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	-	-			
2 負荷変動・遅延制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		2.0	0.25	-	-			
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 種別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-			3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.43	-	-			
1 昼光率		-	-	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		3.0	1.00	-	-			
3.2 グレア対策		-	-	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		-	-	3.0	-			
3 眩り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.21	3.0	-			
3.4 照明制御		3.0	0.36	3.0	-			
4 空気質環境		4.2	0.25	-	-			4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	工場内で使用する化学物質は全て回収装置で改修。工場内の室内空気も排気する前にスクラバーですべて処理したのちに排気している。工場排水も全て水処理、再利用し、余剰分を中和処理し公共下水道へ放流している。	5.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.6	0.30	-	-			
1 換気量	居室の換気量は100m ³ /人。1.6回/hとしている。	5.0	0.33	-	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	工場内は喫煙所以外はすべて禁煙としている。また排気は専用	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.2
1 機能性		2.9	0.40	-	-			2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1 広さ・収納性	居室(作業エリア)は10m ² /人	4.0	0.50	-	-			
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.50	-	-			
3 バリアフリー計画		-	-	-	-			
1.2 心理性・快適性		2.3	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		1.0	0.33	-	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-			
3 内装計画		3.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	製造物の管理上、クリーン度、温湿度管理を徹底している。	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	配管タテ類は露出仕様として、更新性、不具合が即対応できる。	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-			3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ダケ材はガルバリウムで露出仕様として更新時仕上げ材を傷めない構造としている。	3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		5.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	配管は全て露出としている。	4.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	配管は上水、雑用水に系統分け、汚水は中継貯留槽を設置して	4.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.7	0.29	-	3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高は最低階で5m最高階で7mを採用している。	5.0	0.60	-	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.098	5.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性			3.3	0.38	-	-
1	空調配管の更新性	全て露出配管で仕上げ材を傷めないで更新可能	4.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性	同上	4.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		照明のみを対象	5.0	0.43	-	5.0
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	5.0		-	
		集合住宅の評価	3.0		-	
		ERR=44.6%			-	
4 効率的運用			3.0	0.29	-	3.0
4.1	モニタリング		-	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	1.00	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.8
1 水資源保護			3.8	0.15	-	3.8
1.1	節水	衛生器具は節水器具を使用。	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	雨水貯留槽を経て井水処理槽と合流させ冷却塔補給水で使用。	4.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.63	-	4.1
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用	既設外壁を間仕切り壁として使用	5.0	0.25	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	基礎に高炉セメントを使用	5.0	0.21	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材	4.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率87.3%	3.5	0.33	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.2	0.33	-	2.2
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		1.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減	地下浸透式遊水地で全ての雨水を処理している。	4.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制	構内に社員用及び外来用すべてをまかなえる駐車スペースを確	5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ分別化を図り、工場内で発生する端材等は全て再利用してい	4.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		2.0	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

熊本県重点評価結果スコアシート 実施設計段階

建物名称 **富士フィルム九州第4-2期建設工事**

■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		85.6
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				94.4	0.40	37.76
Q1-2.1.3	外皮性能	2.0	0.11			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.11			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.22			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.33			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.11			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.11			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				51.6	0.20	10.32
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				92.8	0.20	18.56
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				95	0.20	19.00
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	5.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数